

武家屋敷の表門

前回、長屋門は鎌倉・室町時代の門塀について書いたが、「武家屋敷」宮崎勝美&吉田伸之編を読み、武家屋敷の外囲いの形式であった表長屋（外長屋）についての成立過程と機能について考察している点を書き出してみた。

◆武家屋敷の表長屋

江戸、大名屋敷の上屋敷では、表長屋が屋敷全体を囲っており、総表長屋ともいう建築形態をとっていて、江戸の初めに存在していた。

江戸の大名屋敷内の構成は、「御殿空間」と「詰人空間」の二元的な要素から成り立っていて、前者を後者が囲んでいると吉田伸之が述べている。

屋敷内は、藩主らを中心として多数の藩士やその家族・従者、国元や江戸周辺などから雇用した奉公人らの生活場でもあった。

藩主らを取り巻く人々の生活空間が「詰人空間」であり、先の屋敷を取り巻く長屋がその場であった。

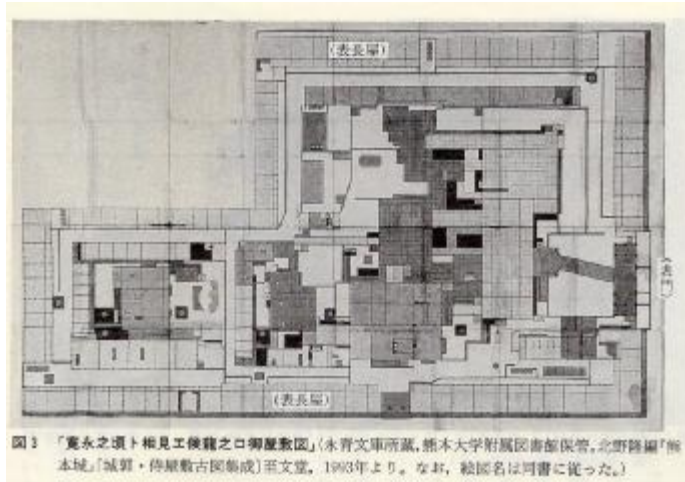


図3 「寛永之頃ト相見工俵籍之口御屋敷図」(水戸文庫所蔵、熊本大学附属図書館保管、北野隆編「熊本城」城郭・侍屋敷古図集成)至文堂、1993年より。なお、松図名は河書に従った。

武家屋敷より

長屋という文字は、古くは「景憲家伝」にあり、聚楽第の造営にあたり家康は「長屋」部門を受け持ち秀吉から金500枚があたえられたと、文面の中にあるという。

武家屋敷表長屋の起源は、永禄3年頃築かれた「多門」というものがあり、多門は、平時は道具類の倉庫とし、戦時には城外を射撃する場所である。表長屋とは用途が異なるが敷地の外周に沿って細長く建てられているところが、共通する。その他※2、野陣小屋の構成とも一致していると西川幸治は言う。

◇下記の記述は、武家の表門・長屋門について詳しく書かれていた「江戸に於ける武家屋敷表門に就いて」※1の論文から引用しました。

◆江戸に於ける武家屋敷表門

江戸には300諸侯と旗本8万余旗の屋敷が並び、表門は厳格なる格式に従い禄高に応じた形式を以て建てられていた。

慶長20年、武家法度により諸侯参観作法が定められた。この時代江戸城周辺に建てられた諸侯旗本の屋敷は、桃山時代の遺風豪華なる武家造風書院造であった。

後期江戸時代には、武家屋敷に関して防火、儉約、格式に関して三種類の制令を出し、分に過ぎる美麗を禁じ、梁の長さ、内部の装飾に到るまで制限を設けた。

格式に関する制限は階級差別は厳然とし、表門に関しては露骨に制限された。

◆武家造の門

徳川時代のはじめは、室町御殿屋形を範とした表門の形式は、四足門、薬医門、上土門、棟門等で屋敷の周囲には、築地を回わした。

◆長屋及び長屋門

長屋門は江戸時代以前に、武家屋敷表門に用いられた例は無いようだ。桃山時代に於ける城郭建築には、防備上城壘の上に長く多門を建て連ね、その隅に隅櫓を設け倉庫と矢掛かりとを兼ねた建物である。記録によれば諸侯屋敷の形式は城郭と同じ造りであった。

武家造には、遠侍（警護の武士の詰所）がいて、領土内土着の者を詰めさせ門番所の役を兼ねていた。

諸侯宅をを見ると小規模な武家造では遠侍がなく、長屋を作ってそこに外様の侍を住ませ番所の役をさせていた。長屋門は、出入り口の造りは、棟門等と同じでただ長屋と屋根を連ねているいることが違っている。即ち長屋が防備上または形式上さらに長屋根を延長して表門と一つに連ねていると見ることが出来る。

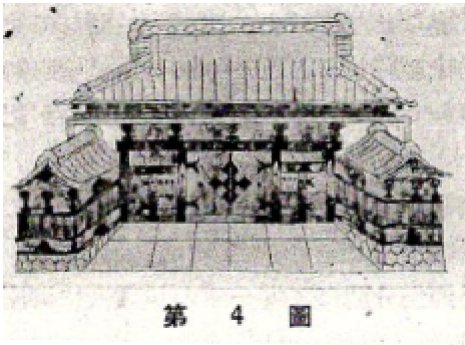
後期時代には大名屋敷にも旗本屋敷にいたっては、ほとんど長屋門を表門としていた、

◆後期江戸時代

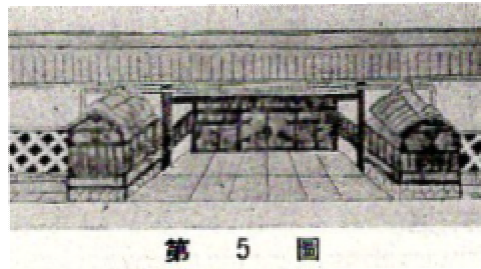
前述した三種類の制令により、その形式を略一定するに到った。塗り家造とし彫刻等は一切禁止され大棟門などは減少し長屋門が多くなり、格式に関する制令により表門を見れば禄高が分かる程になった。

その図及び説明を示す。

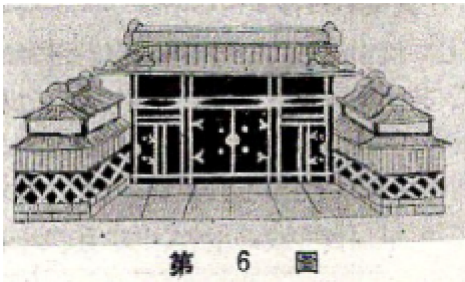
国持大名	両潜、唐破風造畳出両番所
十万石以上	長屋門、両潜、本破風造畳出両番所
五万石以上	長屋門、両潜、石垣畳出両番所附屋根庇造
五万石以上以下外様	長屋門、片番所石垣畳出破風造
一万石以上	長屋門、両番所出格子



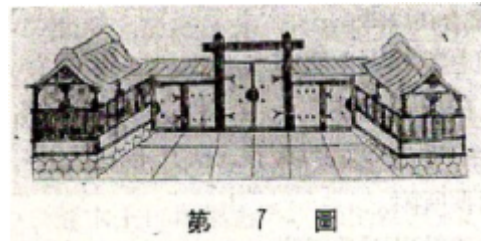
国持両番所畳出唐破風



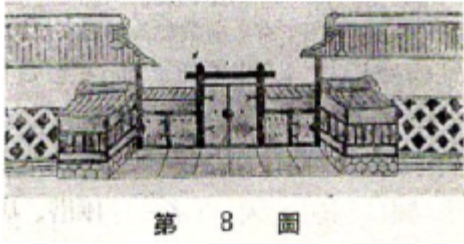
十万石以上両番所本破風



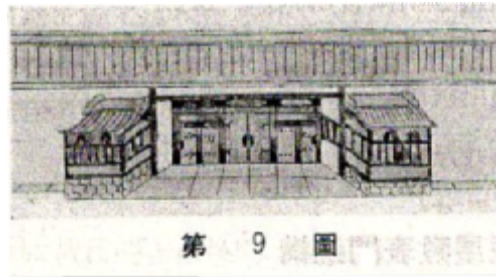
両番所、（詳細な説明無）



両番所櫓塀重門、図の左部は楠木門は国持家並十万石以上



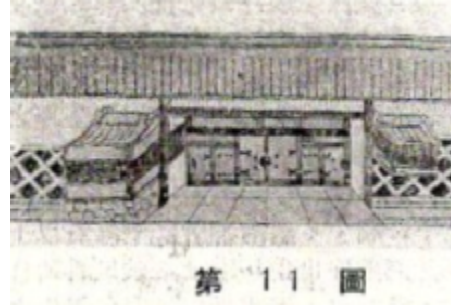
五万石以下両番所石垣疊出不成潤



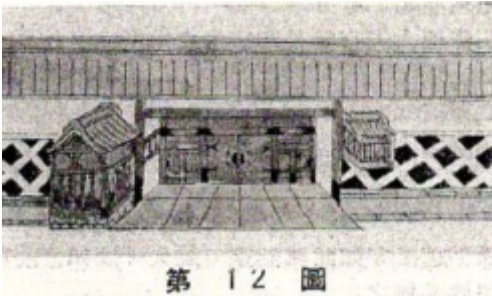
五万石以上両番所石垣疊出屋根庇



五万石以下両番所格子出



五万石以上以下外様両番所石垣疊出不成



三万石以下片番所石垣疊出三屋根庇

※1 田邊泰 伴野三千良による

※2 表長屋は、町屋にもあり野口徹は平安京官衛町の下級官人宿舎や古代寺院の僧房といった供給住宅にも見られると指摘し、中世町屋は行門制の宅地の築垣が消滅の過程で代替施設として形成された長屋が源だと主張し、近世武家屋敷の表長屋も築垣の代替物と類似していると言及。

※3 写真 4~12は、「江戸に於ける武家屋敷表門に就いて」の論文より